

十島村教育委員会だより 令和7年2月号

変わやがトカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 TEL 099-227-977

【如月から弥生へ！1年の締めくくりを確実に！】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

2月（如月）から3月（弥生）へ過ぎ去っていきます。渡り鳥の季節でもあり、十島村はたくさんの渡り鳥が各島を休憩地として、新たな目的地に向かって行きます。それと同じように、今年は15人の後期課程の卒業生が「島立ち」をして、高校に進学していく予定です。前半は3月8日（土）に、後半は11日（火）に卒業式を迎えることになります。併せて前期課程6年生の修了式も実施します。



本年度から義務教育学校として1つの学園になりましたので、卒業式は後期課程の9年生が対象となります。後期課程の9年生がいない学園では、前期課程6年生の修了式を、1～5年生の修了式の前日に実施する学園もあります。

同じく入学式も、前期課程の1年生が対象となります。前期課程1年生の入学生がいない学園もありますが、新任式・始業式と同じ日に後期課程7年生の進級式を実施することになっています。教育委員会告示と村長祝辞は新1年生の入学式と、後期課程9年生の卒業式の時だけに送らせていただきますので、御理解ください。

実施の方法につきましては各島・学園の実情に合わせて実施していただくことにしてあります。昨年までは、小学校卒業式、そして中学校の入学式という節目でもありましたので、心に残る素晴らしい式にさせていただければ有り難いです。

◇満杯まで水が注がれたグラス ～「満水状態」は危うし～

満杯まで水が注がれたグラスには、それ以上の余裕はありません。ちょっとした揺れで水はこぼれてしまいますし、こぼすまいと思えば、その扱いはとてもシビアになり動きは不自然になりがちです。

もし7～8割しか注いでなければ、2～3割分は心に余裕をもつことができます。限界ギリギリまで出し切ろう、締め切りギリギリまで先延ばししようとするより、7～8割の出来や先を見越した進捗を維持するぐらいの余裕をもっておけば、残りの2～3割は自然とプラスに働くようになります。

今年度も残り僅かになりました。学園においては子どもたちへの指導にしても、私たち自身の気持ちが満水状態にならないよう、先を観て余裕をもちながら進めていただければと思います。

令和6年11月16日 南日本新聞「若い目」

田知行さんへ
小宝島学園九年 島 弘大

田知行さん、毎年、母の日にカーネーションを十島村の全学校に送ってくださりありがとうございます。小島島で見るのができないカーネーションを目にするのと、とてもうれしい気持ちになります。僕は山海留学生として、この島で寮生活を送っています。寮母さんにいつもお世話話になりっぱなしですが、感謝の気持ちを言葉にする機会をなかなかつくれません。母の日にいたかくカーネーションで気持ちを伝えることができています。感謝の気持ちをつけてお過ごしください。これからもお体に気を付けてお過ごしください。先日のトカラマラソンの船で村に来てくでさいました。が、ゆつくり島を見ることができなかつたと思います。また、小宝島にぜひ遊びに来てくださいます。



令和7年2月14日 南日本新聞「若い目」

一りん車ゲット作戦
悪石島学園三年 坂元 陽斗

ぼくたちは学校の一りん車でいろいろなわざを練習しています。ただ、一りん車の中には古くてこわれているものもあります。そこで、しょうに入ると一りん車がもらえる絵画コンクールにおうぼして、新しい一りん車をゲットしようとして、学生みんなで話し合いました。先生におねがいして、図工の時間に絵にちよう戦しました。絵のときくいな四年生がリーダーとなつて、いろいろなと教えてもらいました。すると、みんながんばつてとてもきれいな絵を仕上げました。どれもこれもしように入りそうなお品です。「一りん車がとても楽しみなだね」と、もり上がりました。一りん車をゲットできますように。



令和6年10月28日 南日本新聞「若い目」

夢変わったも私の大谷選手
宝島学園四年 川嶋 小春

大谷翔平選手がホームラン五十本と盗塁五十という、米大リーグ初の「五十一・五十」を決めた。私は大谷選手が大好きだ。大谷選手とけっこうある日、部屋にいたとき、母から呼ばれ、テレビを見るように言われた。その場で泣きくずれた。大谷選手がけっこう泣いたからだ。その日は泣きながら宿題をした。次の日、学校へ行くと大谷選手がけっこう泣いたことを、みんなから何十回も言われた。本当に悲しかったが、今はそのときのことを思い出すたびに笑ってしまう。

今の夢は大谷選手と関わる仕事をするのだ。夢は変わったが、大谷選手がヒーロー的な存在であるということは変わっていない。



十島村で学ぶ

【僕の住んでいる島】

中之島学園7年 小原澤 洸己

僕の住んでいる中之島には、たくさん良いところがあります。その中でも僕が特に良いところだと感じるところを三つ紹介します。

一つ目は、「自然」です。中之島には、とてもきれいな海と、大きな山があります。まず、中之島の海の中では、いろいろな魚を見つけることができます。例えば、アオブダイやアカナオヤビッチャなどが見られます。また、中之島には「トカラ富士」という異名をもつ標高九百七十九メートルの御岳が島の中央に雄大にそびえ立ち、島のシンボルになっています。御岳に登るのは大変だけれど、頂上から見る景色は絶景です。

二つ目は、「地域の方々」です。地域の方々に挨拶をしたら必ず気持ちのよい挨拶をしてくださいます。また、フルーツや魚など島の産物をもらえることもあります。中之島のみかんや島バナナはとてもおいしいです。

三つ目は、「学校の給食」です。中之島学園の給食は学校内で作られるため、いつも出来立てアツアツの食事を食べることができ、栄養満点でおいしいです。また、献立にハンバーグやパンなどがある時には、給食調理員さんの工夫により、僕たちが食べやすいように、パンに切り込みを入れてくださいます。

僕の住んでいる中之島には、まだまだ良いところがたくさんあります。雄大な自然や地域の方々の優しさに触れることができる中之島—僕はこの島が大好きです。

子ども会活動 季節の行事



【小宝島節分豆まき】



【平島 カセダウチ】

子供のうた

（二月四日
南日本新聞掲載）

ぼくのシリーズ
中之島学園三年 吉野 将太

ぼくは空にじかかる
心は天使 持っている
やさしい心を かなえるよ
ぼくはながれぼし
みくはくも
もくもくしてここちよい
ぜぼくはしょうらい けいさつかん
たいゆめを かなえたる！